

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200076		
法人名	医療法人社団 聖山会		
事業所名	グループホーム 風早の里		
所在地	千葉県柏市塚崎997-3		
自己評価作成日	平成22年4月8日	評価結果市町村受理日	平成22年6月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然にあふれる笑顔を大切に」の理念に沿って 職員がポジティブに「一緒に過ごすケア」を心掛けています。 一人ひとりの能力に合わせ、手段的日常動作を大切に食事を楽しむ。 「食材を切る(包丁・ハサミ・手でちぎる)」「調理する」 「味見をする」「盛り付ける」「後片付け」など得意なものを 担当して頂き、スタッフと共に「家族」として楽しみながらいきいきと料理をしています。 玄関やウッドデッキは日中は施錠せず、自由に外気に触れる事ができ、笑顔が見られる毎日です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム風早の里」の施設内は出入りが自由となっている。日当たりが良く、天井窓も設置され、ぬくもりのある雰囲気となっている。ユニット間にウッドデッキが設置されており、気軽に外の空気を楽しめるよう工夫されている。外出会の写真をその日の内に掲示し、入居者と職員が楽しみを共有できるよう努めている。法人の訪問看護による適切な健康管理がなされていると共に、医療機関に24時間いつでも連絡取ることが可能となっており、緊急時・急変時に適切な対応が図られるよう協力体制を整えている。また、管理者が看護師の資格を持っており、医療・看護の視点から助言・指導を行っており、施設サービスの質の向上に取り組んでいる。入居者と職員の笑い声が絶えない、明るく楽しい施設作りに努めている。
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
			2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある		
			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族と ○ 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るい家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかに自立した生活が出来るよう支援しています。 個々の職員の能力に合わせた研修参加に努めています。	「自然にあふれる笑顔を大切にする」を主眼とした、施設独自の理念と、1日5回以上笑うことを促した「笑いの処方箋」を職員心得として掲げている。理念と職員心得は事業所内に掲示すると共に、新人研修やフォローアップ研修等にて確認を行い、周知を図っており、笑顔があふれる施設作りに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧等で行事案内を頂き、地区社協のサロンに参加させていただいています。 地域中学生の福祉体験学習の受け入れや、ボランティアによる俳句の会を月1回行っています。また近隣の農園で「いちご狩り」も楽しませて頂いています。	社会福祉協議会の主催するサロンに参加すると共に、地域ボランティア・家族・友人等による催し物が行われており、様々な人達との交流が入居者の生活の活性化に繋がっている。地域中学校の運動会への参加や中学生による福祉体験学習の受け入れ等を通じて、世代交流も図られている。地域の中学校の校庭を借りて行われる花見や、近隣農園でのイチゴ狩り等、地域の協力も得ており、密な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターからの紹介の人や、直ぐには入所希望ではない方の訪問・見学に応じ相談等にもなっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度4回目の運営推進会議では地域包括センター、民生委員、地区社協そしてご家族様と入居者様を交えての会議でした。 入居者様の現状、感染症、行事予定、サービス、会議は年3回にしたいなどをお伝えし、皆様の助言・要望・ご意見を聞き可能な限り反映出来るよう取り組んでいきたいと思っています。	地域包括支援センター職員・民生員・地区社会協議会職員・入居者・家族等を構成員として、開設以来今年で4回目の運営推進会議を開催している。会議においては、施設活動の報告や質疑応答を行い、施設理解の促進を図ると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議の開催回数を増やし、定例化することにより、地域からの情報収集・施設の理解促進を図り、地域に根ざした施設運営に取り組んで頂く事を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターには不明な事項等について、直接訪問したりお電話等により早期に解決出来るよう連携しています。	市に対して、業務における相談・報告を随時行い、連携を図っている。また、施設のパンフレットを設置する等、協力を得ている。施設訪問や「柏市グループホーム」連絡会を通じて、市と意見・情報交換を行い、市と協働でサービスの質の向上に取り組む関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行わず、玄関チャイムやドアチャイムを設置し、入居者様の出入り状況の確認や、来客の対応を行っています。 各居室の窓にも必要以上の施錠は行っていません。	身体拘束排除のマニュアルが整備されており、身体拘束排除に向けての取り組みがなされている。玄関においては、日中は施錠せず、入居者の自由な生活に配慮している。入居者が外に出た場合は、センサーチャイムを活用しながら入居者の安全を確保すると共に、職員が見守りや付き添い適切な支援が行われている。	身体拘束排除のマニュアルを基に、身体拘束排除の取り組みを図っているが、今後は、必要に応じて研修の実施を行い、身体拘束排除の理解を深め、職員全員で共有できる取り組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に高ストレス状態にならないよう体調不調や心配事・職場環境(人材不足)などに気を配り、安全な介護に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例を活かし(入居者様の中で色々な事情から親族→司法書士に成年後見人がチェンジされた方がいる)、各職員が周知出来るよう話し合い、指導しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時や重要事項説明の際、項目ごとに説明し、分からない事がないかどうか確認しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族の方との信頼関係を築けるよう努め、 安心出来るグループホームとなるよう、日々取り組んでいます。	苦情相談窓口や意見箱を設置していると共に、電話連絡時や面会時に家族の意見・要望を確認している。挙げた意見・要望においては、申し送りや会議等を通じて周知・検討を行い、サービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を開き意見を聞き意思決定の場とし モチベーションの維持向上に努めています。	定期的に会議を行い、職員から意見や提案等を確認している。また、日頃の業務において、施設長・管理者が個別に話をする機会を設けており、職員の思いや意見を引き出せるよう工夫し、職員全員が施設運営に関わる職場環境作りがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給があり、評価を行っています。 残業は出来る限りなくしています。 各自が向上心を持って働けるよう研修の機会を多くし職場環境改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が向上心を持てるよう可能な限り外部研修に参加し、また 内部研修にも努め日々業務の中で指導が行えるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会での研修会に参加。 また 他のホームの管理者との交流もしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にセンター方式の書式を使用して本人の訴えや行動を記録し、アセスメントケアに生かしている。安心感を持って頂くために傍に居る時間を多くしています。状況に合わせてご家族と蜜に連絡を取るよう努めています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面会等で話しやすい環境になるよう、ゆっくり・穏やかな口調で話す。ご家族等の要望は職員が周知出来るよう情報の共有に努めています。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の現在の様子・長年の生活背景を十分理解し、ご家族の方と蜜に連絡を取りながら支援の方向性を示せるよう努めています。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何処に行きたいか、何を見たいか、何をしたいかと言う希望に少しでも楽しんで頂きたく人生に寄り添って行けるよう努めています。また一緒に家事をし楽しんだり・共感したりして生活をしています。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の事を考え、ご家族との絆や気持ちを大切にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の今までの生活を大事にして欲しいから、友人・知人の面会や電話も可能です。	契約時に入居者・家族から生活暦等を確認し、馴染みの関係・地域・習慣等を把握している。家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続に配慮している。友人の来訪・電話・プレゼントのやり取りを支援し、関係継続に配慮している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課から、散歩・利用している店で介護職員と一緒に買い物をするなど、馴染の関係から助け合える関係が築けるよう支援しえます。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了と言うような事態になった時は、ご本人・ご家族様とも継続的なフォローはして行きたいと思っております。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話が聞ける方にはさりげなく意向を伺い、意思表示の難しい方には普段の言動やスタッフから情報収集しています。センター方式を利用し一人ひとりの思いや希望に添えたいと思ってケアプランに反映させている。	入居時に本人や家族から意向・身体状況・生活暦等を確認し、記録していると共に、必要に応じて他の事業所から情報の提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、日頃の生活の様子から入居者の思いや意向を把握し、記録を基に会議にて周知・検討しており、その人らしい生活を支援している。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報をもとに、ご本人のこれまでの生活を可能な限り続けて行けるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の場だと言う事を意識して一人ひとりの出来る事を見極められるよう努力しケアへ反映出来るようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ユニット会議を行い、入居者様一人ひとりの個人カンファレンスを行っています。 その時にケアプランについても話し合い、意見交換をしています。	入居者・家族の意向や要望を踏まえ、職員会議で話し合い意向に添った介護計画の作成に取り組んでいる。また、職員会議にて全職員で情報交換を行い、職員が積極的に意見を出し、施設全体で介護計画を作成する体制が整っており、現状に即した介護計画の作成に努めている。毎月、介護計画の評価や目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の特徴的な出来事は個別記録に残しケアプラン見直し時に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ介護タクシーの手配、入院時の付き添い、訪問看護の紹介、また、ご本人・ご家族の相談に応じ取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、訪問歯科、俳句ボランティアを活用しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の時は先ずご家族に状態を伝え、受診の了解を得ています。 受診先はご家族の意向を第一に考えています。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的に内科医の往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。訪問看護が実施されており、入居者の適切な健康管理が行われている。緊急時においては、協力病院と連携し、適切な対応が図られるような体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化は必ず看護師や訪問看護に報告・相談をし、指示を仰いでいます。 やりっぱなしにならないよう申し送り、経過観察を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院側に渡し、電話や面会で情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近くなって来た場合、ご本人(出来れば)・ご家族と話し合いを持ち、どのような形の終末を望むか、訪問看護と連携を取り希望を聞いて行きたいと思っています。	家族から重度化・終末期における指針や対応方法等を説明し、同意書を交わしている。必要に応じて、終末期・重度化に向けての対応方法の検討や意向の確認を行い、施設として出来る限りの支援を行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命講習をスタッフに受けてもらっています。 今後も新入職員は随時受講して行く予定です。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回ペースで行っています。 今後は、夜間を想定した訓練や、運営推進会議の時に消防署の方にも来て頂き施設の設備の説明や消火方法などお話しして頂き、いざと言う時の協力を呼びかけて行きたいと思っています。	災害時におけるマニュアル・連絡網・避難経路図が整備されている。また、火災報知器・消火器等を設置していると共に、複数の避難経路を確保し、災害時に備えている。消防署立会いのもと、年2回消防避難訓練を実施しており、災害時の対応方法を指導している。上級救命講習の受講を計画的に実施し、全職員の受講を目指しており、緊急時に適切な対応が取れるよう、知識・技術の取得に取り組んでいる。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持ち接している。 特に排泄に関しては自尊心を傷つけないよう配慮している。 言葉遣いには特に注意したいと思っています。	プライバシー保護に関するマニュアルが整備されていると共に、新人研修等で接遇に関する研修を取り入れ、入居者のプライバシーへの配慮を徹底している。。全職員でその人に合った声掛けや対応方法の工夫を随時話し合い、入居者の尊厳を大切にしたいサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話の中でご本人の希望や思いが表現出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の方に合ったペースで生活出来るよう柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容・おしゃれに気を遣っている。 ご本人・ご家族から申し出があれば理美容に出張を依頼し、お化粧品等の支援もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、洗う・切る・煮る・炒める・揚げる・盛り付け等の作業をまた後片付けなども介護者と共に役割分担で手伝って頂いています。 昼食はフリーメニューで提供しています。	入居者の希望や身体能力に応じて、食事の準備・後片付け等を共同で行っている。朝食・夕食は業者に委託しているが、昼食においては献立作成・食材の買出し等を入居者と職員が共同で行っており、入居者の希望を取り入れた食事が提供されている。また、出前・外食会の実施・家庭菜園で収穫した野菜を活用する等、食に対する楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録、必要な方は水分量も記録し少ない方には声かけを多くし好みの物をお出ししている。 嚥下状態により、きざみ食・トロミ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに心がけ週1回の訪問歯科でもチェックをしてもらっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態に応じフロア内で検討し機能向上に向けて取り組んでいる。 例えば日中は布パンツにし皮膚への負担を少なくしている。 これに小さ目のパットをプラスする事もある。 行動を見極めてトイレで自然排泄も心掛けている。	排泄チェックリストを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、適切な排泄支援を行っている。入居者の表情やしぐさを観察し、適切な誘導・声掛けにて排泄の自立に向けた支援を行っている。看護師と職員が常に入居者の健康状態や生活状況を観察しながら、必要に応じて食事やレクリエーションを見直し、一人ひとりに合った対応を心掛け、自然排便を促す工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・運動・菜食など考慮しても排泄困難な時は、ヤクルト・ヨーグルト等の飲料や腸内環境を良好にするため主治医と連携し処方にてビオフェルミンや緩下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日夜入浴する方も居るし、中には拒否する方もいるので個別に対応している。	浴室は、天窓が設置されていると共に、エアコン・ヒーター等が設置されており、快適な入浴ができるように工夫されている。また、十分な介助スペースが確保され、脱衣所からトイレに行けることが可能となっており、安全性・利便性に優れた設計となっている。入浴は毎日実施されており、回数や夜間の入浴に対応する等、柔軟に支援している。また、必要に応じてシャワー浴・部分浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室で休みたい人や、ソファでうたた寝する人など自由にして頂いているが、表情や体調の優れない方はベッド誘導し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1包化された処方薬を誤薬のないよう一人ひとり確認し服薬介助している。内容変更時はその都度、全員周知出来るよう申し送っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦が分かった上で、調理・洗い物・洗濯物たたみ・掃除などを無理のないようお願いし、外出好き・買い物好きな方は、買出し時に同行してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は近隣周辺や公園などのへ散歩、地区社協サロンに参加するなどまた、少し遠い所へは計画し車にて外出する事も多い。	天候や希望に応じて、買い物や散歩等の外出支援が毎日行われている。施設にて、月ごとに行事担当者を配置し、入居者の希望に応じた外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。定期的に社会福祉協議会主催のサロンに出かける等、外部との交流が図られていると共に、ユニット間には出入りが自由なウッドデッキが設置されており、気軽に外の空気を楽しむ事が出来るよう工夫されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全く金銭を所持しない方もありますが、紛失する可能性のある事をご家族が納得されている場合、お財布にお金を入れて持っている。(一応本人管理) 買い物も本人が支払い出来るよう支援する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと要望があった時は使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設でなく家である事を前提に、馴染みやすい空間を作っている。 空調・喚起・湿度には注意し清潔保持に努めている。	施設内はバリアフリーになっており、十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全に配慮した設計となっている。リビングは、ソファやテーブル等が設置され、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮されている。また、エヤコンや加湿器等を設置し、適切な空調管理がなされている。季節飾り・入居者と職員による作品展示・外出会の写真の掲示等、入居者と職員が楽しみを共有できるように工夫されている。ユニット間にウッドデッキが設置しており、お茶飲みや日向ぼっこをする等、気軽に外の空気を満喫できるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮し、自発的な行動が出来るよう配慮している。 くつろいでいる時には、スタッフの視線が入らないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様・ご本人とも相談の上、安全で落ち着いた環境になるよう配慮している。 お仏壇を持ち込まれている方も多くいます。	居室は、希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活出来るよう配慮している。また、ふとんを敷くことも可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室にはエアコンが設置されており、職員により適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示・居室の名札は入居者が困っている時にその都度工夫をしている。 目線に合わせた掲示物、物干し竿・ポット・お茶などを手の届く高さにし、好きな時に飲めるように環境に配慮と工夫している。 安全には十分気を配り支援している		